

HQR011-P04

会場:コンベンションホール

時間: 5月27日17:15-18:45

既存ボーリングデータに基づいた荒川下流（埼玉県戸田市-東京都江東区）の沖積層断面図

The cross section of the latest Pleistocene to Holocene incised valley fill along the Arakawa River

小松原 純子^{1*}, 稲崎 富士²

Junko Komatsubara^{1*}, Tomio Inazaki²

¹産業技術総合研究所 地質調査総合センター, ²土木研究所

¹GSJ, AIST, ²PWRI

埼玉県東部から東京湾にかけて延びる低地の地下には最終氷期最盛期に下刻されてできた谷が分布している。最終氷期から完新世にかけての海水準上昇により、この谷を沖積層が埋積し、低地が作られた。埼玉県東部では大宮台地をはさんで東に中川低地、西に荒川低地が分布し、この2つの低地が東京都東部で合流して東京低地となる。東京低地では、埋没した谷地形が現在の荒川の川筋にほぼ並行している。荒川沿いには過去に国土交通省によって行われたボーリング調査による詳細な地下データが多数存在しており、それらは（独）土木研究所が管理する国土地盤情報検索サイト（KuniJiban）で公開されている。たとえば荒川下流部を管理している関東地方整備局荒川下流河川事務所が実施したボーリング調査データは502本登録されており、柱状図等のデータをダウンロードすることができる。今回これらの既公開データに加え、別途同事務所から借用したデータを加え、合計1250本のボーリングデータに基づいて荒川下流部に沿った沖積層断面図を作成した。沖積層が埋めている谷のもっとも深い部分の分布は東京都江戸川区小松川付近で荒川の位置と一致するが、小松川より南では荒川の西側を通り、北では荒川の東および北を通る。このため、荒川に沿った断面図では埋没段丘面上の層序と埋没谷の軸部での層序を確認することができる。本発表では上記既存ボーリングデータに基づき埼玉県戸田市から東京都江東区にかけての荒川沿いに作成した詳細な断面図をもとに、東京低地下の沖積層層序について議論する。

キーワード:荒川,荒川低地,東京低地,沖積層,ボーリングデータ

Keywords: Arakawa River, Arakawa Lowland, Tokyo Lowland, Latest Pleistocene to Holocene incised valley fill, boring data